

平成28年度 不祥事ゼロプログラム 検証結果

平成28年度 県立小田原総合ビジネス高等学校 不祥事ゼロプログラム

小田原総合ビジネス高等学校は、不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり不祥事ゼロプログラムを定める。

1 実施責任者

神奈川県不祥事防止対策要綱に基づき、本校の「不祥事ゼロプログラム」の実施責任者は校長とし、副校長、教頭及び事務長がこれを補佐する。実施に当たっては、事故防止会議（企画会議）が中心になり全職員参加で実施する。

| 2 目標及び行動計画 | 3 検証結果 |
|---|--|
| 1) 公務外非行の防止 目標；公務外での非行を未然に防止する。 | 9月の事故・不祥事防止会議で教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「公務外非行の防止」について再確認し、教職員の意識啓発を行うと共に、12月の事故防止全体会議では、所属教職員全員を対象に職員の綱紀保持についてという視点で職場研修を実施した。 |
| 2) わいせつ・セクハラ行為の防止 目標；わいせつ・セクハラ行為を未然に防止する。 | 年間を通じて、各種啓発資料を掲示し、教職員の意識啓発を行った。また、8月の事故・不祥事防止全体会議では総合教育センター教育指導専門員を講師に招き、「スクハラ・パワハラの防止」というテーマで様々な事例をもとにセルフチェックや演習を実施し、事故防止について深く考える機会を設けつつ、所属教職員全員を対象にした職場研修を実施した。 |
| 3) 体罰、不適切指導の根絶 目標；体罰と不適切指導の発生を未然に防止する。 | 7月の事故・不祥事防止会議で生徒の適切な指導の徹底について確認し、教職員の意識啓発を行うと共に、2月の事故防止会議で、教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて事故、不祥事を振り返り、職場研修を実施した。 |
| 4) 定期試験・成績処理に係る事故防止 目標；定期試験の問題の作成・管理及び成績処理に関する事故を未然に防止する。 | 5月、6月、9月、10月、11月の朝の打合せで定期テストの問題作成・点検及び成績処理について注意喚起を徹底すると共に12月の事故・不祥事防止会議で教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて自己点検を実施すると同時に点検項目の確認を活用し職場研修を実施した |
| 5) 進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止 目標；調査書・推薦書等、進路関係書類の作成・発行に関する事故を未然に防止する。 | 8月の事故・不祥事防止会議で3学年を対象に調査書作成におけるチェック体制及書類送付時の注意点等の確認を行うと同時に教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて自己点検を実施すると共に点検項目の確認を徹底し、注意喚起を行った。 |
| 6) 個人情報管理・情報セキュリティ対策 目標；個人情報の流失及び携帯電話・電子メールの不適切使用を未然に防止する。 | 5月の朝の打合せで生徒への適切な連絡方法について徹底すると共に10月の事故防止全体会議で教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「生徒の個人情報の適切な取扱い・連絡方法」について確認及び自己点検を実施し、注意喚起を徹底した。 |
| 7) 会計事務等の適正執行 目標；会計事務を適正に行い、事故を未然に防止する。 | 4月の第2回事務・不祥事防止会議において「私費会計ハンドブック」を使用し会計規則の遵守について全職員で確認する研修会を実施すると共に、教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて自己点検を行うと同時に、点検項目の確認を実施し、注意喚起を徹底した。 |
| 8) 交通事故防止、酒酔い酒気帯び運転防止、交通法規の遵守 目標；交通事故の発生、酒酔い酒気帯び運転を未然に防止する。 | 12月の朝の打合せにおいて交通事故、飲酒運転の防止について注意喚起を行うと共に1月の事故・不祥事防止会議で教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「スピード違反」「飲酒」「酒気帯び運転」等の事例について取り上げ、研修会を実施し、年末における事故防止について注意喚起を行った。 |
| 9) 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制） 目標；作業プロセスの簡素化、効率化、文書や電子ファイルの共有化と引き継ぎを徹底する。 | 朝の打合せ、事故・不祥事防止会議の機会を活用し、年間を通して、情報共有、相互チェック、業務協力体制の方法及び重要性について注意喚起及び啓発を実施した。 |